

平成 29 年度「ふるさとやまぐち生活体験活動推進事業」実施報告書

宇部市立万倉小学校・吉部小学校 第3・4学年（14人）

平成 29 年 7 月 6 日～7 月 7 日 実施

1 活動のねらい

- 民泊体験活動、自然体験活動、様々な年齢や立場の人との交流体験活動等を実施し、児童に豊かな心を培う。
- 山間部に住む児童たちに、漁村での体験をさせることにより、視野を広げ、今までと違ったものの見方や考え方を身に付けさせる。
- 中学校で一緒になる他校の児童と交流し、お互いの友情を深めることで、中学校進学への期待を抱かせる。

2 全体の指導計画 【主な活動地域名：長門市通】

	期 間	活動の内容	単位時間数
事前指導	6月～7月	○民泊体験学習の概要・目的 ○民泊体験学習のきまり ○通地区についての調べ学習 ○マナーについての学習	4
実施	7月8日～ 7月9日	○地引き網体験 ○漁船乗船体験 ○鯨文化体験 ○民泊家庭との対面式 ○鯨文化学習・鯨唄体験 ○民泊家庭とのお別れ式	10
事後指導	7月	○民泊体験学習の振り返り ○体験内容の発表、交流 ○民泊家庭への礼状作成	4

3 活動の展開

7月6日（木）		7月7日（金）	
8:30	万倉小発・吉部小発	8:00	朝食（民泊先）
9:50	長門市通到着	9:30	鯨文化学習・鯨唄体験
10:00	入村式	11:10	昼食準備手伝い
10:10	地引き網体験	12:00	昼食、民泊家庭とのお別れ式
12:00	2校の交流、昼食	13:20	退村式
13:00	鯨文化体験（資料館）・まち歩き	13:40	長門市通出発
15:30	民泊先との対面式	14:50	吉部小着
15:20	各家庭へ移動、民泊体験	15:00	万倉小着

4 実施上の留意点

- 4月に両校の校長が、直接、通公民館に出向いて事前打合せを行った。また、電話やファックス、メールを使って綿密な打合せを行った。
- 6月に当該学年の保護者会で資料を配布し、活動の趣旨、日程、安全管理、費用等を説明した。
- 事前に保健調査票を民泊受入家庭に送付し、児童の健康上気になる点を把握してもらった。また、実施当日は、2校の養護教諭が1日ずつ交代で児童の体調管理に当たった。その結果2日間、大きな怪我や、体調を崩す児童もなく、全員元気に過ごした。
- 事前に、救急病院や、民泊先で何かあった時の緊急連絡体制を確認した。また、夜間は、管理職が近くの民宿に宿泊して待機した。

5 活動の成果と課題

(1) 成果と課題

- 地引き網体験により、海に入って海水の塩辛さを体験したり、網の中の生きた魚を触ったりしたことで、これまでより海が身近になり、より自然を身近に感じることができるようになった。

〈感想から〉

- ・ 魚は少しは触れるけど、地引き網の時に普通に触れるようになった。
- ・ ひとでに初めて触れたからうれしかった。
- 本校の児童は、普段から地域との関わりが多いことから地域の伝統・文化の大切さもよく理解している。今回、海という大自然に触れたことや鯨文化という異なる文化を学習したことで、新たな知識を得ただけではなく、視野が広がり、自分たちが暮らす地域の自然や伝統・文化のよさを再認識するとともに、様々な自然や文化を受け入れ、大切にしたいという気持ちが高まった。

〈感想から〉

- ・ 今回は海の近くに泊まって、普段は山に囲まれていたけれど、海の近くもいいなと思いました。
- ・ 鯨の赤ちゃんを見たことがなかったし、鯨をどうやってとったかが分かって、かわいそうだけど、わたしたちはそれをもらっているから感謝したいです。
- 今年度は複式学級2校合同の児童数14名で実施した。今回の体験活動の最小実施人数は20名であったので、経費について保護者の負担が増加した。

(2) 今後の改善点

今後も参加人数が少ない状況になると考えられるので、保護者の経費負担を考慮して実施を検討することが必要である。



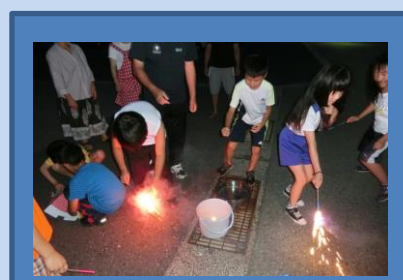
【入村式】



【地引き網体験】



【通地区まち歩き】



【民泊先での花火】



【鯨文化学習】